

学生論文特集の発行にあたって



学生論文特集編集委員会
委員長 和田 親宗

今回で5回目となる学生論文特集は、論文執筆経験が豊富でない学生の研究を活性化し、母国語による論文を発表する場を提供することを目的としている。次世代を担う若手研究者による研究の広がりや世の中に示すことはもちろん、若手研究者同士の分野横断的な新しい研究交流、そして研究活性化の契機となることを期待し、ISS和文論文誌編集委員会が全員で編集に当たるといった企画である。

学生論文特集の特徴の一つは、不採録理由等のコメントの丁寧さにある。これは通常号のコメントが丁寧ではないということではなく、論文作成経験の少ない学生に対する「教育的指導」のような立場でコメントを記していることである。今回残念ながら不採録となった論文については、このコメントを参考に修正を施し、再度投稿されることを期待している。過去の学生論文特集において不採録となった論文の通常号への再投稿は極めて多く、晴れて採録となっている論文を見かけると学生論文特集でのコメントが生かされていることを実感する。また、査読者にも学生論文特集の意義が浸透してきたこともあってか、「学生論文特集の評価は甘い」という誤認識は、非常に少なくなったと思われる（言うまでもなく、採録基準は通常号と同じである）。査読委員からは、いずれの論文に対しても詳細なコメントをいただいております。査読委員の皆様のご尽力に感謝を申し上げます。

今回の投稿数は、前回の39編に対して、20編の投稿と減少した。これは、広報が十分ではなかったことが反省点の一つであるが、同時期に他学会でも同様の特集が組まれていたこともあり論文が集められていなかったことも理由として挙げられる。

厳正な審査の結果、今回の採択率は45%と、従来とほぼ同程度で、9編を採録とした。また、採録された論文の中で、新規性、有効性、信頼性、了解性の少なくとも一つの項目において特に秀逸で、学生としてよく健闘したと称賛に値する論文を秀逸論文として本特集編集委員会が認定を行っており、今回は次の3編の論文を秀逸論文とした。

「雑音環境下音声認識のためのディープニューラルネットワークを用いた識別的区分線形変換」については信頼性と了解性、「深度カメラを用いた実時間姿勢追跡に基づく動的な空間型ARの実現」については了解性、「ゴール指向洗練パターン駆動によるユースケースモデリング」については有効性が優れている点で認定された。

最後に本特集を発行するにあたり、論文をご投稿いただいた皆様、タイトなスケジュールの中、丁寧な査読を行っていただいた査読委員の皆様、企画編集に尽力いただいた特集編集幹事、編集委員の皆様、ならびにサポートいただいた事務局の皆様には心より感謝申し上げます。

今後も継続的に本特集が企画され、若手の支援・教育の場として機能することを期待し、巻頭の挨拶に代えさせていただきます。

和田 親宗（正員） 1990大阪大学工学部卒。1996北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。北海道大学電子科学研究所・助手を経て、2001年より九州工業大学大学院生命体工学研究科・准教授、現在に至る。福祉工学のための生体計測やヒューマンインタフェース研究に従事。計測自動制御学会、日本リハビリテーション工学協会、日本人間工学会、ヒューマンインタフェース学会、IEEE会員。

学生論文特集編集委員会

委 幹 委	員	長 事 員	和北青市籠栗蘭平三佐岩酒	田原西谷嶋原田浦藤田向	親 敦岳 光太郎 幸克具慎	宗格亨郎彦聡太郎豊也成治司	・ 岩秋岩河小中福光横山	野岡元田林尾田原川下	公明浩佳 洋弘智隆	司香太樹匠恵治幸教義	・ 川荒衛川鮫中堀吉倉佐	西牧藤西島村山田立藤	隆英将隆和 貴尚尚信	仁治史仁行豊史史明夫	・ 石角木篠原松吉中合	井川村崎口原本田田	雅裕昭隆 行潤明和	博次悟宏亮宏一郎夫生
-------------	---	-------------	--------------	-------------	---------------	---------------	--------------	------------	-----------	------------	--------------	------------	------------	------------	-------------	-----------	-----------	------------